

令和3年度

「市民後見人養成講座フォローアップ研修」を開催しました

令和4年1月18日（火）、水戸市福祉ボランティア会館にて市民後見人養成講座修了生のスキルアップを目的とした「市民後見人養成講座フォローアップ研修」を開催しました。平成30年度修了生のほか、連携市町村担当課の職員や、連携市町村社会福祉協議会の日常生活自立支援事業担当など24名の方が参加し、講師に茨城県社会福祉士会会長の竹之内章代氏を招いて、「支援記録の書き方」をテーマにご講演をいただきました。



研修前半の講演では、「支援者として何をしたのか、本人からどのような反応があったのか、記録は、支援の考察や分析の根拠となる大事な情報となること」、「支援者は本人を取り巻くネットワークのなかで支援をしている。私たちの書く記録は個人情報が多いため、権利や利益を守る必要があること」、「記録が読まれ活用されるために留意すること」等、記録の目的と意義、個人情報保護に関すること、記録の書き方についての話がありました。

新型コロナウイルスの感染者が増えていることから、会場の常時換気、消毒液・アクリル板の設置、座席間隔を空ける等、感染症対策を講じて実施しました。



研修後半では、グループに分かれて、支援の事例を基に演習を行いました。参加者同士の意見交換は、個々の支援における記録の書き方を振り返るきっかけとなり、今回の研修を通して、記録のスキルを向上させることで、より良い支援につながることを再認識することができました。